

愛知県感染症情報

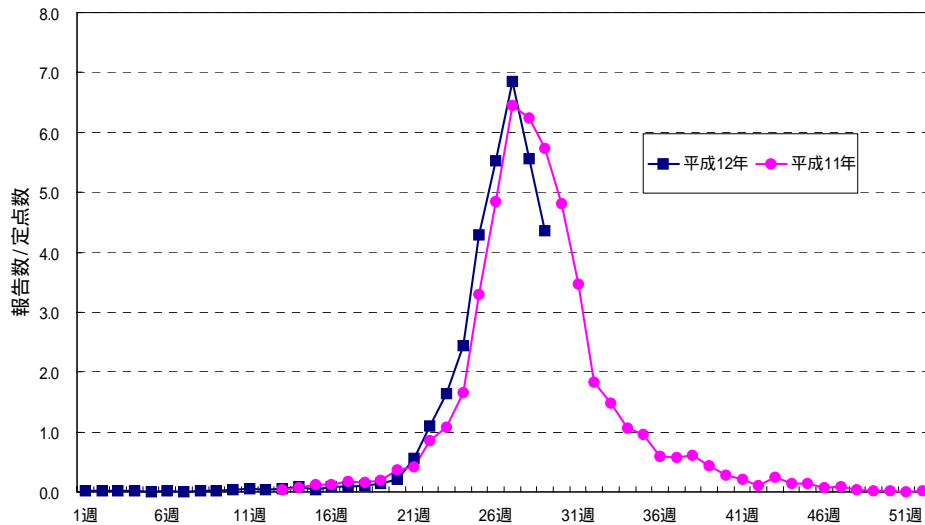
平成 12 年第 29 週（7 月第 3 週）

（コメント）

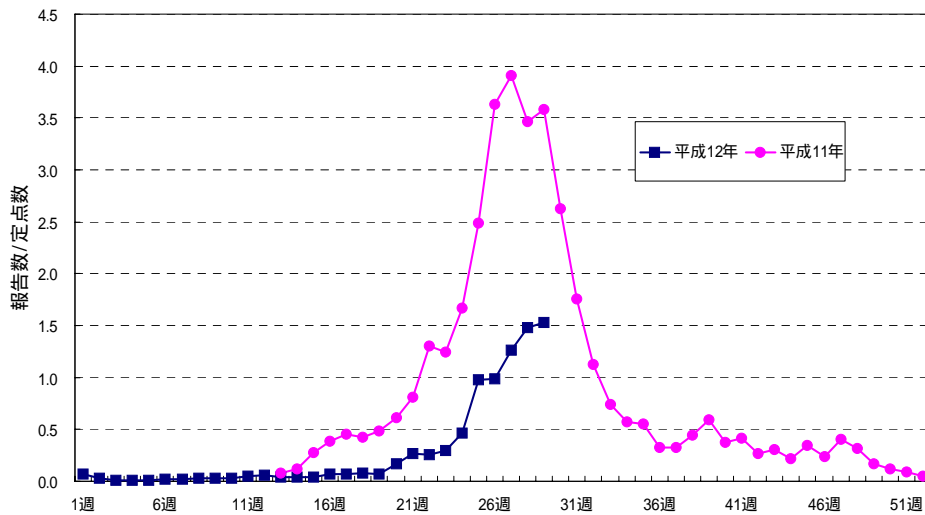
ヘルパンギーナはピークを過ぎたようです。

手足口病はピークをむかえています。無菌性髄膜炎を合併した例も見られていますので注意してください。

先生方からのコメントに小児の帯状疱疹の報告が見られます。



ヘルパンギーナ(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)



手足口病(名古屋市を含む。平成11年は、13週(4月1日～)から)

（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ 5歳女、マイコプラズマ肺炎，5歳男、マイコ（？）右上葉無気肺が2例つづけてありました。

高熱の持続する（2～5日）夏かぜが多いです。強い咳を伴うも

のあり。

(一宮市 あさのこどもクリニック)

- ・ 便アデノ 3 歳。
(尾西市 城後小児科)
- ・ ヘルパンギーナは少なくなりました。伝染性膿痂疹が多く見られています。
(江南市 みやぐちこどもクリニック)
- ・ ヘルパンギーナ多し
(岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック)

● 尾張東部地区

- ・ ヘルパンギーナが少し落ち着きました。
今週は、流行性耳下腺炎が目立ちました。(髄膜炎合併 1 例有り：6 歳男児入院)
手足口病は、まだ認められません。
(尾張旭市 佐伯小児科医院)
- ・ サルモネラ腸炎 O-4 6 歳男、O-7 11ヶ月男
(瀬戸市 津田こどもクリニック)
- ・ 2 歳女児サルモネラ感染性腸炎 1 名ありました。
(春日井市 かちがわ北病院)
- ・ 無菌性髄膜炎散発(週に 2 ~ 3 名) EB 感染数名あり
(小牧市 小牧市民病院)
- ・ 帯状疱疹 2 歳女
流行性耳下腺炎 10 歳女 (ワクチン接種済み)
(東海市 小児科ハヤカワ医院)
- ・ 髄膜炎を合併した手足口病が 3 例ありました。
(東海市 東海市民病院)

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 O-44 3 歳男
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ カンピロバクター 8 歳男
サルモネラ菌 7 歳男
(幸田町 とみた小児科)
- ・ カンピロバクター陽性 2 例(2 歳女、12 歳男)
(西尾市 やすい小児科)

● 東三河地区

- ・ 4 歳女 6/26、7/18 と手足口病、今シーズン 2 回目
(蒲郡市 医療法人鈴木小児科医院)

* 28 週コメント中「9 歳女」とあったのは、「9 歳男」の誤りで

した。

- ・ 今週も数日から 5、6 日間つづく熱発児が多かった。肺炎例 2 例。

(田原町 かわせ小児科)

(1~3 類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者 3 名

- ・ 安城保健所から報告の 4 歳男 7/10 発病、7/12 初診、7/17 診定。菌型は、O-157 VT1・VT2(+).
- ・ 豊川保健所から報告の 76 歳男 7/16 発病、7/16 初診、7/19 診定。菌型は、O-157 VT2(+).
- ・ 安城保健所から報告の 35 歳女 7/18 初診、7/20 発病、7/21 診定。菌型は、O-157 VT1・VT2(+).

腸管出血性大腸菌保有者 2 名

- ・ 江南保健所から報告の 25 歳女 7/12 初診、7/15 診定。菌型は、O-157 VT2(+).
- ・ 江南保健所から報告の 20 歳女 7/13 初診、7/17 診定。菌型は、O-157 VT2(+).

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)

発生はありません。

第 27 週 (7 月 3 日 ~ 7 月 9 日) の 4 類感染症の全国状況

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は例年の同時期よりかなり多いが、患者報告数は減少傾向にある。咽頭結膜熱と手足口病の定点当たり報告数は例年の同時期よりやや多くなっている。手足口病の定点当たり報告数が多いのは、奈良県 (20.9)、佐賀県 (20.7)、和歌山県 (19.9)、群馬県 (17.8)、山形県 (12.9)、鹿児島県 (11.5) などである。ヘルパンギーナは報告数が急増しており、例年 7 月下旬にピークがあるが、今年は過去 10 年間で最大の流行曲線を描いている。定点当たり報告数が多いのは、千葉県、群馬県、宮城県、埼玉県、新潟県などとなっている。麻疹の患者報告数は依然大阪で多い。流行性角結膜炎は定点当たり報告数が例年の同時期よりやや多く、沖縄県で定点当たり 4.3、高知県で 4.0、茨城県で 3.3 の報告がある。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋

厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報)

2000年6月2日号（75巻22号）

メジナ虫（ギネア虫。注：寄生虫症。前々回75巻18号で紹介。成虫はヒトの皮下に寄生、下腿や踝部など水につかる部分の皮膚を破って産卵、中間宿主は水中のミジンコ。汚染された生水を飲んで感染。症状は皮膚炎、筋炎、骨膜炎、運動障害など）。

最大の常在地であったインドでは1996年、パキスタンで97年以来根絶、現在アフリカのサハラ南縁13カ国で発生中。国際協力による根絶計画進捗中。

思春期年齢層を対象とした予防接種：予防接種拡大計画（EPI）の進展は乳幼児におけるワクチン接種による予防可能な疾患群の減少に多大な貢献をはたしたが、思春期ないし成人（10 - 19歳）を対象とした予防接種について、EPIの Scientific Advisory Group of Experts (SAGE)が下記ワクチンについて実施を勧告。

ジフテリアトキソイド：流行地居住者ないし旅行者への追加接種。

B型肝炎：各地区における浸淫状況に応じて。

麻疹：単味、またはMR，MMRによる追加接種を麻疹根絶目的で。

ポリオ：常在国への非常在国からの旅行者を対象とした追加接種。

破傷風トキソイド：新生児破傷風予防のため妊婦を対象に。

黄熱病：国際検疫病。旅行者は接種必要。

インフルエンザ：2000年5月。アルゼンチン：A型。カナダA型とB型。

2000年6月9日号（75巻23号）

大腸菌O157：カナダ。大腸菌O157の集団発生がオンタリオ州で報告。27名が入院、5例死亡。5月12 - 15日。水系感染。詳細は調査中。

狂犬病調査：99年の発生状況の調査がWHOにより開始された。

ウイルス肝炎：日本。99年の法改正により急性ウイルス性肝炎が届出疾患となり全数報告がされることとなった。本報告は最初の99年4月 - 12月のまとめである。

全国の報告数が1,455例であり、A型肝炎713例（49%）、B型肝炎497例（34%）、C型肝炎138例（9%）、E型肝炎2例、その他のウイルス性肝炎70例（5%）、原因不明35例（2%）であった。

A型肝炎：64%が男性、若年青年層に多く生牡蛎による国内感染が目立った。

B型肝炎：65%が男性、20歳代最多。43%が性感染症。1 - 2%激症肝炎。

C型肝炎：52%が男性、比較的年長者。針刺し事故による感染例が5例。

その他：E型肝炎2例（中国で感染?）、EBV41例、CMV14例。

インフルエンザ：2000年5月。アルゼンチン、オーストラリア、ブラジル、メキシコ、南アフリカ。A型散発。

6月2日 - 8日届出。コレラ：ソマリア、シンガポール（輸入例）、ペスト：米合衆国。

学校が夏休みに入って、朝夕の通勤電車にいささか余裕があるようになりました。ドア近くの床や改札口の横にペタンと座り込んでいる連中を見ると本当に暑苦しいんだから。

いつも貴重な情報を有難うございます。7月前半のまとめをお送りします。

1. 名古屋市内：ヘルパンギーナと手足口病が増加中で、手足口病に合併したウイルス性髄膜炎も多発中ですが一方で口内疹だけの軽症もみられています。ヘルパンギーナの重症合併症は少ないようですが高熱と脱水の例が多いようです（国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、労災病院伊藤先生）。咽頭発赤と高熱の感冒（労災・伊藤先生）、咽頭結膜熱（千種区今枝先生）、膿痂疹とブ菌性火傷様症候群（国立・松下先生、城北・渡辺先生、労災病院伊藤先生）などのご報告もあり、消化器系では細菌性下痢（国立・松下先生；サルモネラ2例）、感冒症嘔吐症と感染性腸炎（VT1、2ともに陽性の腸管出血性大腸菌O111が1例（三菱・岩間先生）、呼吸器系ではRSウイルス陽性喘息様気管支炎（城北・渡辺先生、気管支肺炎と喘息性気管支炎（三菱・岩間先生）などのお手紙が目立ち、母親と生後2ヵ月の児の水痘（国立・松下先生）、アフタ性口内炎の同胞例（三菱・岩間先生）などの報告もいただきました。労災・伊藤先生から百日咳2例、国立・松下先生から麻疹の入院例ありとのこと、今後の流行状況に注目したいと思います。

2. 尾張地区：江南市昭和病院丸地先生からはヘルパンギーナ、ムンプス、水痘、伝染性膿痂疹（A群溶連菌、ブ菌；入院例あり）、2歳以下の喘息性気管支炎、麻疹、水痘、ムンプスによる入院が1～2例あり、岩倉市永吉先生からはヘルパンギーナ流行中で中には単純ヘルペスの歯肉口内炎も混在、1～5歳に多発、手足口病で発熱を伴うものが多く、溶連菌感染症とムンプスが続発中、常滑市民病院肥田先生からは溶連菌感染症とヘルパンギーナの小流行、夏カゼの脱水症、ヘルパンギーナ様で顔と体幹に丘疹を伴う夏カゼ流行あり、半田市立病院中島先生からは特に目立った感染症なし、とのお手紙でした。

3. 三河地区：トヨタ病院木戸先生からは夏カゼ（ヘルパンギーナなど）増加、それにより変調をきたした慢性疾患患児の入院と夏カゼの発熱による熱性痙攣、喉頭炎、気管支炎の入院が目立つ、岡崎市民病院系洲先生からはムンプス（髄膜炎の入院が目立つ）、ヘルパンギーナ、百日咳（要入院例目立つ）、知立市近藤先生からは水痘とムンプス（ワクチン接種例1例）、幼稚園保育園児のヘルパンギーナと手足口病多発、小学生の感冒性胃腸炎やや多い、刈谷市田和先生からはヘルパンギーナがやや多くムンプスと水痘時々あり、碧南市永井先生からはヘルパンギーナと手足口病が目立ち溶連菌感染症と伝染性紅斑、ムンプスが散発中、豊橋市宮澤先生からは手足口病が目立ち無菌性髄膜炎2例発生とのお手紙でした。有難うございました。